

## 1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し (全国市中数量調査の自社所有分による)

\* 上段は前期比在庫増減、中段 [ ] は在庫水準、下段 ( ) は在庫水準前期比 (%) (自社所有分に限る。  
点線内は全鉄連による予想数字 ( ) 内は誤差率=予想値÷実績

平成24年6月末	平成24年 9月末	平成24年12月末見 通し	平成25年3月末見通 し
-22千トン [ 2295〃 ] (99.1%)	-30千トン [ 2265〃 ] (98.7%)	+23千トン [ 2288〃 ] (101.1%)	-32千トン [ 2256〃 ] (98.6%)
2300千ト.(100.2)	2283千ト.(100.8)	*	*

## 2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成24年6月末	平成24年9月末	平成24年12月末見通し	平成25年3月末見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は73,700円で前年比-8,200円、前期比では-2,400円。需要は出遅れたままで、メーカー値上げにも市場は動意せず、ジリ安状況を露呈していた。それに追い打ちを掛けるように一部メーカーの大幅値下げにより市場は弱気一色となった。それによりユーザーの値引き要請が強まり、粗利は低下し、さらには在庫の評価損、受注の手控えなどで採算が阻害された。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は71,700円で前年比-8,300円、前期比では-2,000円。建設土木需要は徐々に始めているが、製造業関連は建産機、自動車が落ち込んでいる。全般的に需要は停滞しており、それを反映して市況は弱含みで推移。メーカー値上げにも反応は鈍い。在庫量自体は多くないが、販売動向が精彩を欠いているため、過剰感が否めない。需要家からの指値は相変わらず厳しい。	建設・土木関連需要は遅ればせながら出始め、先々も大型物件、復興関連案件など、継続して出件されるだろう。一方、製造業関連では建産機が大幅な落ち込み、自動車の生産も低落し、早急な回復は望めない。需要全体としては未だ停滞感を拭えず、市況も弱含み傾向で推移している。メーカー、流通とも採算的に厳しい状況に置かれているため、在庫調整を再度行い、市場環境の改善を図りたいが、思うように在庫が減らない状況でもある。	需要は、建設土木関連では大きな落ち込みもなく順調に推移するだろう。一方、建産機、自動車を主とした製造業関連は対外要因もあって、1~3月期の好転は考えづらい。また、それに連なる設備投資関連も望めそうにない。従って、需要総体で見れば製造業関連の落ち込みを建設関連でカバーできるとは思えない。在庫は微減、市況は横ばいという推移であろう。そして、注意すべきは与信不安のさらなる顕在化である。

## 3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

需要の出方、価格動向により在庫の持ち方は変わってくるが、目先の景況感として大きく落ち込まないが、早急に市場環境が好転する要素もないため、必要なものだけ仕入れ、余分な在庫は持ちたくないという姿勢であろう。

## 4. 大阪、愛知の動向

(大阪) 目立った大型物件はないものの、中小物件を中心に動きが出てきている。太陽光発電関連の加工の需要は出ているが、採算確保は苦しい状況だ。中国経済の低迷により、自動車・建機・産機向けの需要落ち込みの影響は大きい。来期は関西でも震災復興関連需要が遅ればせながら出始めると思われる。

(愛知) 衆議院議員の総選挙直前で、今回ほど12月16日の結果次第で国内景気に大きな変化が予想されることは珍しい。是非ともデフレを脱却し、景気の回復を願っている。